

日薬業発第 98 号
令和 4 年 6 月 28 日

都道府県薬剤師会担当役員 殿

日本薬剤師会
副会長 安部 好弘

サル痘に関する情報提供について（依頼）

平素より、本会会務に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、ヒトのサル痘に関しては、2022 年 5 月以降に欧州や北米を中心にサル痘流行国への海外渡航歴のない感染者が確認されており、市中感染の発生が示唆されております。これを受けて 6 月 23 日には、世界保健機関（WHO）で緊急委員会が招集され、引き続き状況を注意深く監視し、更なる情報収集をするとされました。また、アジア薬剤師会連合（FAPA）も加盟団体に対し、サル痘に関する認識向上を呼びかけております。

6 月 28 日時点では日本国内での人のサル痘の発生事例は確認されておられません。アジア諸国において入国者の感染が確認されるなど国際的な感染拡大の懸念もあり、公衆衛生上の観点から十分な注意する必要があります。

つきましては、貴会会員へサル痘の症状や感染経路等の関連情報をご周知くださいますよう、お願い申し上げます。

- 厚生労働省ホームページ「サル痘について」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/monkeypox_00001.html

- 国立感染症研究所ホームページ「サル痘とは」

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/408-monkeypox-intro.html>

サル痘

1. 病原体

ポックスウイルス科オルソポックスウイルス属のサル痘ウイルス

2. 感染経路

アフリカ生息するリスなどの齧歯類をはじめ、サルやウサギなどウイルスを保有する動物との接触によりヒトに感染する。また、ヒトからヒトに感染することがあり、主に接触感染、飛沫感染をするとされている。

3. 潜伏期

6～13日(最大5～21日)

4. 治療と診断

(1)臨床症状:

- ・発熱、頭痛、リンパ節腫脹などの症状が0-5日程度持続し、発熱1-3日後に発疹が出現。
- ・皮疹は顔面や四肢に多く出現し、徐々に隆起して水疱、膿疱、痂皮となる。
- ・多くの場合2-4週間持続し自然軽快するものの、小児例や、あるいは曝露の程度、患者の健康状態、合併症などにより重症化することがある。
- ・皮膚の二次感染、気管支肺炎、敗血症、脳炎、角膜炎などの合併症を起こすことがある。

(2)診断:

- ・主に水疱や膿疱の内容液や蓋、あるいは組織を用いて PCR 検査で遺伝子を検出することが有用である。
- ・その他、ウイルス分離・同定や、ウイルス粒子の証明、蛍光抗体法などの方法が知られている。

(3)治療:

- ・対症療法

5. 予防法

- ・天然痘ワクチンによって約 85%発症予防効果があるとされている。
- ・流行地では感受性のある動物や感染者との接触を避けることが大切である。

(厚生労働省ホームページ「サル痘について」より抜粋)